

花ちゃん・オー君・モンタ博士のわくわくドキドキ国立てくてく

国立第七小学校 平成25年12月16日 NO.70

ある日、オー君がひとり言をいいながら、てくてく歩いていたとき・・・。

校門を出て、しばらく歩いて、右や左に曲がって、それから、きよろきよると右左を見ていると・・・とある所で…

オー君 「冬になって寒（さむ）くなっても、いろいろな花がさくんだな。おいら知らなかったな。ヒイラギだろ、サザンカだろ、それから、もうないかな。
ジロ！ジロ！ジロ！あれ？なんだ。花みたいだけど…こりゃ、大発見だ。」

その後、花ちゃん、モンタ博士を連（つ）れてきて、三人で観察したとき…

オー君 「モンタ博士、花ちゃん、あそこに何か花みたいなものがあるよ。」

花ちゃん 「あ…あれは、たしか『ピワ』の花じゃないかしら。」

モンタ博士「その通りだね。『ピワ』の花はさむい季節（きせつ）にさいて、夏のはじめに実（み）ができるんだ。」

オー君 「そうだ。夏のはじまる前に、食（た）べたことあるよ。」

花ちゃん 「さすがはオー君ね。食べ物の方はしっかりとおぼえているのね。」

オー君 「ところでさ、ピワの花は、この寒いのによくさいてるね。感心しちゃうよ。」

花ちゃん 「ピワの花をこんなにじっくりと見たことなかったけど、花びらの周りには、茶色（ちゃいろ）の毛みたいのがいっぱいいつているわ。どうしてかしら。」

オー君 「たぶん毛むくじゃらの方があったかいんじゃないかな。おいらだって冬には毛糸のマフラーやセーターを着（き）るもんな。」

モンタ博士「その通りだね。いいところに気がついたね。いま花ちゃんがじっくりと見たと言っただろう。それが大切なことさ。何気なく見ているものでも、じっくりとしっかりとおちついて見ると、いろいろな発見があるということだね。」

花ちゃん 「もう他（ほか）に発見することはないかしら。」

オー君 「ねえ、よく見ると、花は横を向いているけど、つぼみはだいたい下をむいているよ。どうしてかな。」

モンタ博士「これまたいいところに気がついたね。つぼみが下を向くということは、どうしてかなと考えてみよう。ビワの花のさく季節は冬だね。それがヒントだ。」

花ちゃん「そうだ。分かったわ。ビワは冬でもさくでしょう。冬には雪がふるでしょう。もしつぼみが上を向いていたら、雪がつぼみの上につもって、つぼみがこおってしまうかもしれないわ。寒さから花を守るために、ビワの花のつぼみは下を向いているというわけですね。」

モンタ博士「そういうことなんだ。植物だっていろいろと工夫しているというわけさ。」

オー君「植物って、けっこうえらいんだな。おいら、またまた感心しちゃったよ。」

モンタ博士「植物は寒さという環境（かんきょう）をのりこえるために、環境に合ったような植物の体を作っているんだ。これをむずかしい言葉でいうと、適応（てきおう）というのさ。」

花ちゃん「ふーん。植物のひみつをさぐるっておもしろいですね。」



ビワ